

様式1 【社会科・小4・「きょう土の伝統・文化と先人たち」】①

本時のねらい

高崎祭りについて学習してきたことや体験してきたことをもとに、高崎祭りを受け継ぐために自分にできる取組を考え、表現する。

ICT活用のポイント

考えを比較したり、選択・判断したりするために学習支援ソフトの共有機能を活用した授業

【つかむ】

高崎祭りの過去・現在・未来のつながりを意識させ、自分事としてめあてをとらせる。

〈めあて〉

高崎祭りを受け継ぐために、自分たちにできる取組を考えよう

【追究する】

学んだことをもとに、班ごとに「できる取組」を比較・検討し、意見を選択する。

祭りに携わった人の思いと関連付け、選択した意見のよさを班ごとに考える。

【まとめる】

自分にできる取組とそのよさについて各自が言葉でまとめる。

事例の概要

- 座標軸上に各自が考えた祭りを受け継ぐために「できる取組」を出し合い、2つの視点から比較・検討し、選択する。
- くらげチャートを活用し、選択した取組のよさを挙げていき、祭りを受け継いでいくために「自分にできる取組」をまとめる。

【事例におけるICT活用の場面①】

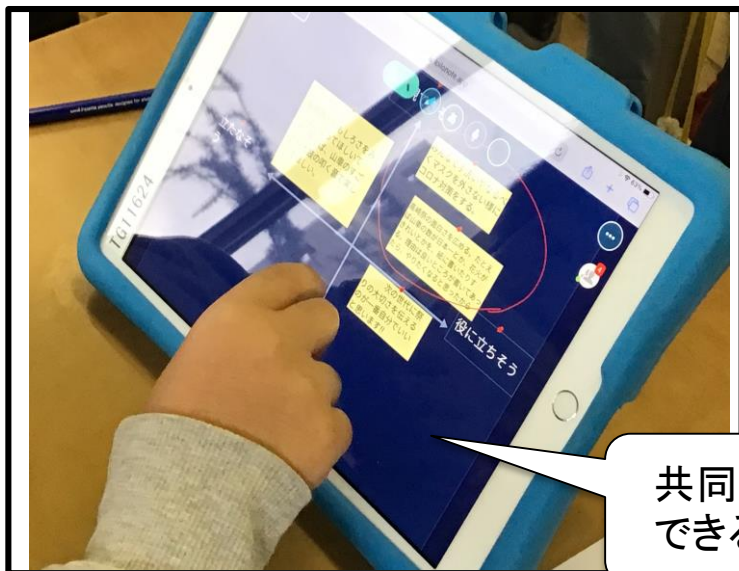
- 学習支援ソフトの共同編集機能を使い、班のメンバーで同時に操作ができるようにする。座標軸上に班のメンバーが考えた取組を班で「実現可能か」「祭りに役立つか」という視点で比較・検討し、現実可能で役立ちそうな取組を1つ選択する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 班ごとに共同編集機能を使って、くらげチャートに選択した取組のよさを具体的に考え書き込んでいく。出されたよさを判断材料としながら「自分にできる取組」を考える。

【社会科・小4・「きょう土の伝統・文化と先人たち」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



班で同時に操作が行えるよう協働編集機能を活用した。班のメンバーそれぞれが座標軸上に、今までの学びをもとに考えた「できる取組」をカードに書き、貼り付けていくことで、互いの考えを共有しながら作業することができた。

その後、班でそれぞれの取組を「実現可能か（縦軸）」「祭り続けるために役に立つか（横軸）」という2つの視点で比較し・検討した。

検討しながらそれぞれの取組が座標軸上のどの位置に収まるか、理由を説明しながらカードを移動させていった。

それぞれの取組が整理され、実現可能で祭りに役立ちそうな取組を班で1つ選択することができた。

共同編集機能を活用することで、多様な考えを共有しながら作業することができる。また、出された考えを比較・検討しながら協働的な活動につなげる。

【事例におけるICT活用の場面②】



共同編集の画面をくらげチャートに切り替え、班で選択した取組についてのよさを「祭りに携わる人々の願いや思い」と関連付けて考えた。各自がよさを付け足していくことで選択した取組について、いろいろなよさに気づけた。

出されたよさを「この〇〇という取組には△△というよさがある。だから、祭りを受け継いでいくためには大切なんだ」という本時のまとめをする際の判断材料とすることができた。

取組のよさを手元で確認できる。また、自分の考えをまとめるときの判断材料として活用できる。

【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- ・思考ツール
- ・共同編集機能